

箱根土曜塾からのお知らせ No. 6

～「箱根土曜塾」で活躍する講師について～

箱根土曜塾は受講生の学力に応じてグループ（5人前後）に分かれ、各グループの講師が受講生に合わせたプログラムにより、授業を行っています。今回は、箱根土曜塾で活躍する講師を紹介します。

- 〔 1. 氏名・性別 2. 箱根土曜塾の講師に応募したきっかけ  
3. (受講生・講師にとっての) 箱根土曜塾の魅力 4. 受験生へメッセージ 〕

1. 片桐 力 ・ 男 【写真左】  
2. 来年から高校の教員になるのでその勉強のため。  
3. 先生が優しく、距離が近いので、丁寧な指導ができる。  
4. やり方を知るのではなく、仕組みを理解できるようになるう！

1. 平野 雄生 ・ 男 【写真左から2番目】  
2. 自分より先に箱根土曜塾で講師をしていた知り合いの方に紹介していただき応募しました。  
3. 学校や集団塾よりも講師と生徒の距離が近いことと、生徒が自分の考え方を発信しながら学習できる点です。  
4. 勉強は大変な事も多いけど、高校受験は避けては通れない道なので一緒に頑張りましょう！！



1. 中西 隆斗 ・ 男 【写真右から2番目】  
2. 塾がなく入試対策が手薄になってしまう土地に足を運んで授業をすることで、結果に対して生徒や保護者はどのように感じるのだろう、その喜びに自分が立ち会えたらどれ程いいだろうと思ひ、応募させていただきました。  
3. 箱根町の生徒はとても好奇心が強く素直で、わからない問題には果敢に挑戦し、自ら進んで他の生徒に解いた問題を教えるという姿勢がよく見られます。  
4. 折角の休みにも関わらず、朝早くから箱根土曜塾に足を運んで勉強しているのはとても偉いことです。その姿勢に我々先生たちは全力で応えるので、必ず全員で第一志望校に行きましょう！応援しています。

1. 生沼 翔太 ・ 男 【写真右】  
2. 箱根の町が好きだったことありますが先輩講師の方から生徒の頑張りを見て手助けがしたい、と思ったことがきっかけです。また、新しい授業形式にも興味がありました。  
3. 通常の授業では出来ない少人数でのグループ型演習授業が魅力だと思います。時には講師が一方的に教えてもいいのですが、生徒同士で助け合ったり考えたりして答えを導き出す経験は余りないのではないのでしょうか。講師も生徒が楽しそうに勉強に取り組んでいる姿、そして成長を近くで見ることが出来るという点が魅力です。  
4. いつもお疲れ様です。今年は例年と異なり、大変な状況下での受験になると思います。ですが、すべきことは変わりません。目標に向かって少しずつ進んで行ってください！残りの時間、一緒に頑張りましょう。応援しています。

箱根町一貫教育のはなし

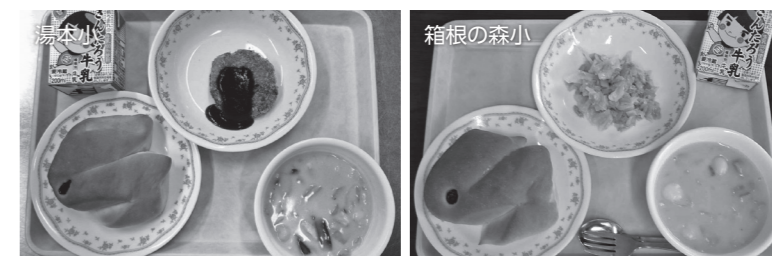
～ 一貫教育は給食も共通献立で ～

今回は一貫教育における給食の話題です。9月号でも書きましたが、箱根町一貫教育を推進していく組織のひとつに給食献立研究委員会があります。この委員会を構成するメンバーは、各小・中学校の栄養士と担当管理職、教育委員会の担当者です。

箱根町では給食に係る一貫教育の取組として、月に数回、児童・生徒や教職員に喜んでもらえるような共通献立の給食を提供しています。神奈川県産の食材を使った地産地消メニューや日本各地の郷土料理、西洋料理や中華料理はもちろん、エスニック料理まで世界各国の代表的料理、そして冬至や正月、節分、雛祭りなどのときに食べる行事食など、これまでに多くの共通献立を提供してきました。なかでも芦ノ湖でとれるワカサギを使った『スクール箱根丼』は提供が始まって10年になります。共通献立実施日の名称も、親しみやすいネーミングにしたいという栄養士の願いから、昨年度、愛称を公募し、全ての児童・生徒と教職員の投票により『はこねランチ』に決定しました。

写真は10月1日の給食です。このなかで『うさぎパン』と『お月見シチュー』、『牛乳』が共通献立になっています。各校のホームページには、その日の給食の画像とコメントがアップロードされているので、見比べてみるのも楽しいですよ。

さて、この広報が発行される12月1日は、児童・生徒が『食』を通して感謝の心を持ち、自分の健康を考える日、『箱根町小・中学校お弁当の日』です。こちらの取組も、給食献立研究委員会の取組なのです。



共通献立 3品+里芋コロッケ

共通献立 3品+キャベツとツナのソテー



共通献立 3品+ほうれん草とベーコンのソテー、ゼリー

共通献立 3品+キャベツのソテー、ゼリー



「家庭教育を考える」  
～地域でささえる・地域へつなぐ～

「ありがとうございます」校庭に響く児童の声。校庭の除草や樹木の剪定をさせていただいている環境ボランティアの方々にお礼の言葉を述べた本校児童の声である。また、別の場面では、新型コロナウイルス感染症対策のため、給食の配膳を児童が行うのではなく、教職員が行ってきた。（現在、高学年は給食の配膳を行っている）担任教諭以外の教諭が配膳に教室へ行くと、児童から「ありがとうございます」とさわやかな言葉が聞かれる。自分たちのために多くの方が関わってくれているこ

とに目を向けることができることは、素晴らしいことである。感謝の気持ちを持ち、人に伝えるという姿は一朝一夕では育まれない。きっとご家庭でも「ありがとう」の気持ちを大切にするように声をかけ、子育てをしてくださっているからではないかと思う。さらに「ありがとう」の“和”が子ども達の心に広がるように、あたたかい教育を行っていきたい。  
湯本小学校 ☎85-5414

照会先 教育委員会生涯学習課 ☎85-7601